

No 22

31 January 2009

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成21年1月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

新年を迎えて

## 「2009年の挑戦」



唐 沢 敬

NPO法人 日本・パプアニューギニア協会  
副 会 長

アメリカ発の金融危機で世界中が揺れた2008年の大晦日、パプアニューギニアでは沢山の人が首都ポートモレスビーのラマラ・ゴールド・クラブに集まり、カウントダウンと花火大会で新年を祝ったとのこと。これは1月2日付新聞『ザ・ナショナル』が伝えたものですが、同時に、同紙は「2009年の挑戦」と題する年頭社説を掲げ、金融危機や社会不安の拡大から経済と国民生活を護るよう政府と国民に訴えました。

世界経済が拡大する中、過去5年間、パプアニューギニアは比較的順調な経済成長を遂げてきました。GDP成長率3.7%(06年)、インフレ率2.9%(同)は決して悪くなく、石油、木材、魚介類の輸出の伸びでGDPの66%を生み出してきました。財政・金融問題も改善され、世界銀行もこれを評価しています。最も伸びた産業の一

つは観光業です。昨年この国を訪れた外国人の数は10万4122人(前年比34%増)、大半はオーストラリア人(52%)、フィリピン人(7%)、アメリカ人(6%)等でしたが、日本人は僅か3.3%、驚きました。ビジネスや会議への参加が訪問目的の41%を占めていただけに残念な数字です。

このように、成長を遂げてきたパプアニューギニア経済ですが、まだまだ十分でなく、さらに、ここにきて急速に困難が増えています。資源価格の下落や金融危機による経済・財政悪化のためです。世界規模の金融危機とたたかい、格差・貧困・感染症等の拡大をどう阻止していくか、2009年はパプアニューギニアにとって特別な年となりそうです。人と技術と知識による協力関係をどこまで強化できるか、私達も一緒に頑張りたいと思います。



# 海外文化セミナー ～パプアニューギニア～

村中 奏(杉並区交流協会)

2008年11月30日(日)杉並区産業商工会館(杉並区阿佐谷3-2-9)で「海外文化セミナー～パプアニューギニア～」を開催しました。杉並区では、毎年ひとつの国を選んで、その国の歴史や文化を紹介しています。2008年は、それがパプアニューギニアとなりました。

当日はマイケル・マウエ大使の講演を皮切りに、イレーネ賀集氏によるスライドショー、さらにポリアライブによるワークショップ形式のダンス公演など、参加者が「見る・聞く・参加する」を体感する、三拍子そろった内容となりました。そして、その後の交流会では、パプアニューギニアの留学生やJICA OB、同国の環境問題に取り組んでいる大学生などがブースを出展、パプアニューギニアについての話に花を咲かせました。パプアニューギニア産のコーヒー、バナラビーンズ、バナナケーキも振る舞われ、会場はリラックスした雰囲気に包まれました。当初は参加者が集まるかどうか心配もありましたが、当日は154名と想像していた以上の数にのぼりました。



マウエ大使

この度は、NPO法人日本・パプアニューギニア協会をはじめ、多くの関係方々から多大なご協力を賜り、このイベントを行うことができました。パプアニューギニアを訪れたことがない私たちも、パプアニューギニアの人々の温かい心や豊かな自然に触れることができました。現代社会が失ってしまったものがパプアニューギニアにはまだあるということ、そしてパプアニューギニアを訪れた人々がパプアニューギニアに魅了されるということなど、未知のことを知る楽しさ、視野を広げる素晴らしさ、学びの世界や出会いの発見、それらすべてを実感できた一日となりました。

ご協力いただいた関係者の皆様、ほんとうにありがとうございました。私たちもぜひ、魅力たっぷりのパプアニューギニアを訪れてみたいと思います！



PNGの楽器



## ポートモレスビーで

### 折り紙教室



Irene Gashu イレーネ 賀集  
(当協会理事)



みんな上手に鶴が折れました！

2008年9月24日、ポートモレスビーのSt. Joseph's International Catholic Schoolで、昨年のトークとスライドショー「現代の東京」が好評だったので、今年も折り紙教室を行いました。今年も昨年同様、Mrs. Yogi Barampataz ヨギ・バランパタズ様が協力してくださいました。

当日は、日本大使館から泉川直仁一等書記官、由美夫人と20年以上大使館にお勤めのMrs. Luddy Sallun ルディー・サルン様がお手伝いにかけてくださいました。由美夫人はとても明るい方で、子どもたちの扱いが大変お上手でした。あとで伺いましたら、昔、幼稚園の先生を4年間もしていらっしゃったそうです。

また、24日は学校がお休みの日だったので、ヨギ様が事前に子どもたちの保護者にも案内状を出しておいてくださいました。ですから、多くの大人たちも参加し、折り紙教室は大賑わいとなりました。

まずはじめに、ヨギ様が折り紙の歴史についてお話しされました。それから、大人も子どもも全員で鶴を折りました。みなさん、とても器用で、どの鶴もかわいらしく上手にできあがりました。

JPNGからは折り紙と英語で書かれた折り紙の本を2冊学校の図書館に寄付していただきました。日本大使館からは折り紙、ポスターとおせんべいをいただきました。おせんべいはこけしの形をしていましたので、子どもたちは大喜びでした。

交流会の様子



# マウエ大使、岩手県立大学で講演会

原 晃 (当協会理事)

The National の新聞記者サンソン・ケンデマン氏が取材に来てくれましたので、折り紙教室の記事が次の週に掲載されました。「日本・パプアニューギニア協会がパプアニューギニアの子どもたちに日本文化を学ぶ機会を提供してくださいました」というくんだりで。



泉川様(左)、私(中央)、ヨギ様(右)

昨年11月17日、東北に冬の訪れが近づいた頃、マイケル・マウエ大使が盛岡にある岩手県立大学で講演会を行った。この講演会は、大使と現在岩手県立大学学長でいらっしゃる谷口誠当協会前会長との間で長い間の懸案事項であった。お二人ともたいへん忙しい毎日を送っていらっしゃるため、日程がなかなか合わなかった。が、今回ようやく実現にこぎつけた次第だった。

講演は、大学の学生、教職員及び当協会役員を前に、「太平洋地域における中国の存在」と題するもので、通訳を交えず英語で行われた。大使は、太平洋地域における中国の存在感の増大に触れ、さらに日本と中国の援助手法の違いにも触れられた。

中国に比較して、日本の援助は交渉に時間がかかり、しかも、日本は実施時点で融通が利かないと指摘された。日本もかつては、援助の実施時点で融通性をもっとあった。しかし西欧の指摘により、プロジェクトの枠組みを明確にすること、納税者への説明責任を果たすことという観点から、準備期間内に骨組みをしっかりと決めていく方向に変わってきている。

中国では、ODA実施は独自の方法をとっており、しかも、透明性は国内外でさほど問われないため、実施にあたり、かなりフレキシブルであることがわかった。

これからの日本は、前述したような制約

を受けながらも、被援助国のニーズを敏感に受け止め、できるだけ彼らのニーズに合うように、いかにしてプロジェクトを実施していくか。それが今後の課題であろう。

講演会後は、学長自らの案内で岩手県立大学内の視察を行った。岩手県立大学は、10数年前から各県で創設されはじめた看護学部をもつ県立大学である。他県では、「県立看護大学」と呼んでいるのだが、この大学は、単に「県立大学」としているところが印象的だ。その名のとおり、看護の他に、介護・福祉、さらに情報通信とより幅の広い学科構成になっている。建物は、コの字型の廊下に各棟がついており、廊下の端から端まで1キロ以上に及ぶ広さだ。

岩手県でお世話になった方々は、皆さんとても親切であった。そして、PNGにとっても興味を示してくださり、たいへん嬉しかった。これを機会に、岩手県とPNGが友好を深め、両国の明るい未来を築いてくれれば、こんな嬉しいことはない。



熱弁をふるう大使



谷口学長



講演会の様子



日本・パプアニューギニア協会  
法人会員紹介 第15回

「みなさん、こんにちは。」

「有限会社ピーエヌジージャパンです。」

〒102-0073 東京都千代田区  
九段北1-7-3 九段岡澤ビル1階

TEL03-5226-7731

FAX03-5226-7669

ピーエヌジージャパンはパプアニューギニアへの旅をお世話する現地旅行会社で、平成12年に設立しました。現在は都内九段下の東京事務所の他、パプアニューギニアの首都ポートモレスビー(ゲートウェイホテル内)と高原の町ゴロカ(バードオブパラダイスホテル内)に日本人常駐の支店を配し、毎年約1000名のお客様のお世話をしています。渡航目的も個人・団体の一般観光、鳥や動物、花、昆虫など自然観察、各地への慰霊巡拝、トレッキングやハイキング、ダイビング、サーフィン、フィッシングなどレジャーの他、大学の学術調査、企業の出張、TV取材コーディネートなどあらゆる旅行に対応しています。また昨年末NHKでも紹介されましたエコツアーの開発にも積極的に取り組んでいます。

私が初めて訪れた10年程前、パプアニューギニアで見かける旅行者のほとんどは欧米人でしたが、その数は限られてい

たように感じました。彼らは小型のクルーズボートをチャーターして美しい海を満喫し、お抱えの車とガイドで雄大な大地と民族を数週間かけて旅する、日本の旅行と比べると旅行期間も長く、費用も随分とかかる大変リッチな旅をしていると感じ、同時にこの国にはごく限られた観光インフラしかないと思いました。一般に今まで日本人客への観光誘致は、主に欧米市場によってある程度完成された設備やサービスをそのまま日本人向けに和訳したり、施設に日本人スタッフを配するといったものでしたので、この国に関してあてはまるのは単独施設でサービスが完結するダイビングリゾートであろうと思い、私がダイビングインストラクターでもあったことから、初期の段階ではパプアニューギニアの海を

潜り歩き、自分で感じた素晴らしい海を日本のダイバーに紹介することから始めました。続いて添乗員同行の団体観光ツアーや自然観察ツアーを積極的に売り込み、この国でしか見る事の出来ない自然と民族をアピールしていきました。

現在、若者の海外旅行離れということが言われていますが、私はマストツーリズム(大衆向け観光旅行)の終焉であると考えています。したがってこれから日本人観光客を呼び込もうとする場合、今までよりも強い誘引要素が必要であると考えています。パプアニューギニアにはブランド店が入った大きなショッピングセンターや遊園地などの箱物施設はありませんが、幸運にも豊かな自然に個性ある人々が暮らしています。それはパプアニューギニアにしかない



ポートモレスビー支店の上岡支店長と妻エミリー



ゴロカ支店の見形支店長とスタッフ

尊い観光資源で、我々はその魅力をより強くアピールすることこそが仕事であると考えています。自然との共生が世界中で注目されている現代において、パプアニューギニアの人々の暮らしは現代日本人も学ぶべき点を数多く有していると思いま

す。そのことを一人でも多くの人たちに伝えていきたいと願っています。

また最後になりましたが、深い傷跡を残した太平洋戦争の歴史を後世に伝えていくことも日本人として忘れてはならない役割と考えています。

## 事務局からのお知らせ

### 鎌田 多津丸写真展

フォトグラファー鎌田多津丸写真展「パプアニューギニア 太鼓の躍動が伝わる国」が開催されます。ぜひ、ご覧ください。

\* 2009年3月13日(金)～19日(木)

\* 10:00～19:00

\* 富士フォトサロン(六本木東京ミッドタウン)フジフィルムスクエア2F)

### ポストカード

ポリライブがPNG造形物のポストカード

を作成しました。5枚入りで400円。ご興味のある方は、ポリライブ担当高柳氏までご連絡ください。TEL090-9106-0957

### 永代神楽祭のご案内

(東部ニューギニア戦友遺族会)

2009年4月5日 午後2時 靖国神社にて、東部ニューギニア戦友遺族会主催の下、永代神楽祭が執り行われます。参加ご希望の方は、東部ニューギニア戦友遺族会事務局までご連絡下さい。(TEL03-5216-3555)

### 学生会年費1000円

学生むけ当協会会員年会費1000円を設

定しました。みな様のまわりにいらっしゃる学生さんにお声がけをお願いします。

### 訂正とお詫び

ごくらくちようNo21 表紙 2行目「チェリールーム」が「チェリールム」になっていました。お詫び申し上げます。

## 編集後記

2008年はPNGのイベントがたくさん行われたように思います。今年も地道ではありますが、PNGの和と輪を広げていきたいと思います。 佐藤直子

## 日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的として、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。  
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1,000円  
会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。  
\*会員数 2008年12月末 法人会員 / 19 個人会員 / 105

加入者名簿 / 番号 00140-2-277582  
加入者名簿 / 日本・パプアニューギニア協会  
加入者名簿 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局  
〒102-0074  
東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6階  
(ニューギニア航空 日本支社内)  
電話:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556  
E-mail:info@air-niugini.co.jp